

第1回キャンパスおだわら運営委員会 会議記録

日 時	平成25年6月28日（金）午後2時から4時まで		
場 所	小田原市生涯学習センターけやき 2階 大会議室		
委員長	三輪 建二	出席	学識経験者
副委員長	瀬戸 充	出席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
委員	金澤 久美子	欠席	学識経験者
	齊藤 ゆか	出席	
	左京 泰明	出席	
	有賀 かおる	出席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
	安藤 恵	欠席	
	岩屋 泰彦	出席	
	与那嶺 信重	出席	
	石井 悦子	出席	公募市民
	永田 圭志	出席	
	宮地 妃佐子	出席	教育委員会が必要と認める者
小田原市教育委員会	前田教育長		
文化部	諸星部長、原田副部長		
事務局（生涯学習課）	古矢課長、大木担当副課長、村田係長、相澤主任、茂木主任、塚本、廣瀬		
キャンパスおだわら事務局	奥村理事長、木村理事		
キャンパスおだわら人材バンク実行委員会	早野委員長、太田副委員長		
傍聴者	なし		

※委員は区分別五十音順（委員長・副委員長除く）

【議題（１）委員長及び副委員長の選出について】

事務局 キャンパスおだわら運営委員会規則第４条の、「委員会に委員長及び副委員長１人を置き、委員の互選により定める」との規定に基づき、正副委員長の選出を議題とさせていただきたい。

仮議長 正副委員長の選出について、委員の意見を求める。

（事務局の提案を求める声あり）

仮議長 事務局から提案をさせてよろしいか。

（異議なしの声あり）

仮議長 事務局から提案を求める。

事務局 委員長に三輪委員、副委員長に瀬戸委員を提案する。

仮議長 事務局の提案に意見があるか。

（異議なしの声あり）

仮議長 異議ないものと認め、三輪委員を委員長に、瀬戸委員を副委員長に決定する。

【議題（２）キャンパスおだわらの概要について】

事務局 まず、「キャンパスおだわら」の開設の経緯について、簡単に説明する。平成２２年度の、市の総合計画審議会での「生涯学習の振興における行政の役割を考え直すべき」というご意見等を契機に、平成２３年度まで実施していたおだわらシルバー大学の「おだわらシルバー大学運営委員会」の場等を活用し、小田原市における生涯学習事業のあり方を検討してきた。

その後、平成２２年度中に、関係団体との協議、開設フォーラムの開催、（仮称）おだわら生涯学習大学開設準備会での検討を経て、「（仮称）おだわら生涯学習大学の開設についての骨子案」を策定・承認いただき、平成２３年４月から、「（仮称）おだわら生涯学習大学」事業がスタートした。

平成２３年５月２０日に開かれた、この運営委員会の前身になる運営委員会で、この骨子案を元に議論を重ねながら、仕組みを整え、平行して事業を進めてきた。名称もスタート時には決まっていなかったが、運営委員会での協議を経て、「（仮称）おだわら生涯学習大学」と言っていたものを、現在の「キャンパスおだわら」という名称にした。

キャンパスおだわらでは、「学習講座」、「学習情報」、「学習相談」、「人材バンク」という、これらの生涯学習事業を統合的に、また、ここが大きな特徴であるが、市民主体で進めていこうとした。あわせて、それまで市が実施してきた生涯学習講座についても、再編を行うこととした。

キャンパスおだわらは、開設から２年を経過しているが、先ほども申し上げたとおり、開設後も随時仕組みを整えながら実施してきたので、現在の仕組みは、当初のものとは若干違っているところもあることをご承知おきいただきたい。また、これから説明するキャンパスおだわらの概要についても、現在の仕組みの中で、キャンパスおだわらが目指す姿ということで、必ずしもすべてが、この説明のとおり運営されているというわけではないことも、あらかじめご承知おきいただきたい。

資料1「キャンパスおだわらの理念及び目的」について説明する。

小田原市内には、市民主催の学習講座、市主催の学習講座を始め、様々な生涯学習事業が実施されているが、キャンパスおだわらは、「だれもが、いつでも、どこでも、なんでも学べる場」として、市全体での生涯学習を推進するため、まず、市内の生涯学習情報を把握し、学習情報の提供や学習相談に活用するとともに、それらの学習記録を個人個人がつけていくことによって、学習意欲の向上を図る。また、市の生涯学習事業の不足部分を把握・検証することによって、不足部分を補うなど、さらなる生涯学習の充実が図られる、そのような姿を目指している。

この「まちじゅうキャンパス」の実現を、学ぶ人、教える人、キャンパスおだわらを運営する人、行政など、みんなで創りあげていく、という意味で、理念を「まちじゅうキャンパス～みんなで創るキャンパスシティおだわら～」とした。

目指す姿を具体的に表したものが、その下に記載してある目的で、

- ・だれもが気軽に学習できる機会の提供
- ・郷土について知り、学ぶ機会の提供
- ・目的意識を持った知識・技術等の習得
- ・まちづくりに意欲をもって取り組む人材の育成

の4つである。

次に、資料2-1「キャンパスおだわらの運営体系」について説明する。

キャンパスおだわらの運営にあたっては、小田原市教育委員会の附属機関であるキャンパスおだわら運営委員会への諮問を通じた意思決定に基づいて行われる。

キャンパスおだわら事業は、学習講座、学習情報、学習相談、人材バンクを4つの柱としている。これらの内容については、また後ほど説明させていただくが、運営主体としては、学習相談、人材バンクについては、実行委員会の形式で運営し、全体の調整をキャンパスおだわらの事務局が担っている。

キャンパスおだわらの運営には、市のほかに2つの団体、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会と、きらめき☆おだわら塾を運営する会が参画している。

NPO法人小田原市生涯学習推進員の会は、学習講座、学習情報、事務局の運営を、市の委託という形で請け負っている。

きらめき☆おだわら塾を運営する会は、昨年度まであった市の人材バンク制度、きらめき市民教授制度の活用業務を請け負っていたが、今年4月に、新しいキャンパスおだわらの人材バンク制度がスタートしたため、現在は、NPO法人小田原市生涯学習推進の会、きらめき☆おだわら塾を運営する会、市の三者でこの人材バンクについての実行委員会を構成して、運営している。

次に、資料3キャンパスおだわらの事業内容について説明する。

小田原市内には、市民主催の学習講座、市主催の学習講座を始め、様々な主体により学習講座が実施されている。キャンパスおだわらでは、「まちじゅうキャンパス」という理念にあるとおり、基本的には市の全域で実施される学習講座のすべてを対象講座とし、全体像を把握することを目指している。そのために、認定という制度を設け、全体把握をすることによって、不足分野への対応を行い、学習講座の充実に結び付けていくこととしている。

キャンパスおだわらでは、大きく分けて市民講座、企業講座、教育機関講座、行政講座の4つに区分し、これらすべてを網羅するものと考えている。

本運営委員会においては、認定審査を行っていただくことになっている。認定審査は、「講座基準」により実施するが、基準を満たしているもので、時期的に運営委員会で認定を得られないものはまず事務局の方で仮認定させていただき、次回の運営委員会で報告、認定とさせていただきます。講座の企画から実施まで、期間があるので、すべて運営委員会にかけてからということになると、時期がたってしまうので、仮認定という制度を設けさせていただいている。後ほど本日の運営委員会でも、議題(3)で、講座の認定ということで、また改めてお願いしたい。

学習情報について、キャンパスおだわらでは、こうした講座開催等の情報等を、主に4つの媒体で市民に提供している。

1つ目は「キャンパスおだわら情報誌」で、特集記事(トピックス)、講座・イベント情報等の生涯学習情報を掲載し、毎月1万部を発行し、公共施設や市内の書店等で配布している。

2つ目は「自分時間手帖」で、小田原市内の団体・サークルやイベントの紹介、施設案内などの生涯学習情報を掲載し、年1回5月に、5,000部発行し、公共施設等で配布している。

3つ目はキャンパスおだわらホームページで、概要や講座・学習情報・学習相談・人材バンクなどの情報をタイムリーに提供している。

4つ目は「PLANETかながわ」で、これは神奈川県の方でやっている包括的な生涯学習情報システムだが、インターネット上で検索機能がついており、こちらで講座・イベント及び団体・サークルの生涯学習情報の提供を行い、広域的な対応にも努めている。

学習相談については、学習者が個人またはグループで、ある事柄を自分の意志で主体的に学習しようとしたり、学習内容をさらに深めようとしたりする際に手助けとなる学習の機会や方法・施設・教材・人材などに関する情報を提供している。生涯学習センター本館、けやきの学習相談窓口と、川東タウンセンターマロニエの2階にある「まなびの相談室」の2箇所で開催している。

次に、人材バンクについて説明する。

この人材バンクは、キャンパスおだわらの理念「まちじゅうキャンパス～みんなで創るキャンパスシティおだわら～」を目指して、市民の「学ぶ喜び」、「教える喜び」を実現し、人材バンクに登録したかたがたが活躍していただいて、また自らも成長できることを目的とした制度で、今年度から新たにスタートした。

具体的には、ボランティア講師を「キャンパス講師」として登録し、そのキャンパス講師が市民の要請に応じた講座を開設するほか、このキャンパス講師を活用して人材バンク実行委員会が企画・運営する連続講座・分野別グループ講座といった講座を実施するものである。

キャンパス講師の登録にあたっては、人材バンク実行委員会が認定を行っており、そこで疑義が生じたものについては、こちらのキャンパスおだわら運営委員会に諮って決定することとしている。

なお、キャンパス講師として登録できるものとしては、資料の中ほどに記載してある。政治・宗教活動や営利目的などは除いている。

また、こちらの登録にあたっては、推薦者を必要としている。また、政治・宗教、営利目的、虚偽の申請や、適正を欠くと判断した場合は、登録はできないものとしている。

「自分時間手帖」の55頁の方をご覧くださいと、今年の5月現在のキャンパス講師の名簿が掲載されている。キャンパス講師は随時募集しており、昨日現在の登録者数は92名

である。このキャンパス講師の登録期間は今年の4月から3年で、登録いただいた方には年会費をいただいている。

次に、キャンパスおだわらのジャンル表について説明する。キャンパスおだわらでは、学習講座、学習相談内容、人材バンクなどについて、統一したジャンルを使用し、市民が探しやすい情報提供を目指している。

次に、キャンパスおだわら運営委員会について、改めてご説明させていただく。

キャンパスおだわら運営委員会は、この4月に新たに、市の附属機関として条例に位置づけられたもので、設置目的にあるとおり、「キャンパスおだわらの運営に関する事項につき、教育委員会の諮問に応じて調査し、その結果を報告し、及び必要と認める事項について意見を具申する。」「キャンパスおだわらの運営の円滑な推進を図るための方針決定、協議等を行う。」ことをお願いしている。

皆様には、今回2年間の任期ということでお願いしたが、資料の中ほどにある「会議内容」とおり、開設から2年間経つキャンパスおだわら事業について、これまでの事業の検証と、それを踏まえた今後のあり方を中心に協議いただきたいと考えている。

開催予定は、年5～6回である。本日と、次回8月上旬の2回で、まず現在のキャンパスおだわらについての概要を把握していただき、3回目から、評価方法の検討を含め、課題の抽出や、今後のあり方等ご協議いただきたいと考えている。

本日のキャンパスおだわらの概要の中では、まずキャンパスおだわらが何を目指していたかという、その目指す姿というのを中心にお話しさせていただいたが、次回以降は、実績データ等を用いた現状や、開設前後における事業の比較など、詳細な概要をお伝えしたいと考えている。

また、今後の進め方については、会議の流れ、また皆様のご意見による変更等をふまえ、三輪委員長はじめ皆様とご相談しながら、進めさせていただきたい。

なお、三輪委員長には、キャンパスおだわらの開設前から、ご協力をいただいております。前委員会でも委員長として多大なご尽力をいただいている。補足説明等あれば、お願いしたい。

委員長

私の前回の運営委員会の印象としまして、制度の構築のためにいろいろ議論したという印象がある。たとえばキャンパスおだわらの中でまず学習講座が大事だと思うが、理念としては小田原市内全体の講座が対象になる。その点は素晴らしい理念であるが、全部をとというわけにもいかないので、どういう講座がキャンパスおだわらにふさわしいのか、ということを考え、そのために認定という仕組みを作った。そして事務局に仮認定していただいて、私たちが事後承諾する、そういうふうにしてみようというのが、議論の中でできたことである。

学習情報についても、キャンパスおだわらの情報誌とか、ホームページとか、自分時間手帖とかPLANETかながわという多様な媒体を通じてというところが素晴らしいところである。キャンパスおだわら情報誌というのは、何回発行したら迅速に情報提供できるのかといったことを議論しながら、なるべく毎月発行して、ブラッシュアップして、でもそうだとすると重なる情報をどうするかという、とても細かいところまで議論した。最先端の情報をなるべく迅速に、またその情報誌をどこに置いたら良いのかといったかなり細かいことも議論した記憶がある。

人材バンクについては、小田原市には市民教授といった伝統があり、なにか専門家だけが先生になるというだけでなく、培った経験とか、職業経験などを生かして、市民も講師になる。その名称をどうしようかと委員会で議論した記憶がある。また、誰でもなっていけるかどうか、推薦者が要かといった議論をやった覚えもある。

最後にキャンパスおだわらの実行委員会のことであるが、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会ときらめき☆おだわら塾を運営する会が参画をして小田原市と三者で、議論しながら、話し合っていたというのがある。それぞれすぐ見識と特色があった。きらめき☆おだわら塾の方は市民教授の実績があって、社会教育的な、非常に丁寧に講師を集めて講座を開いてということやってきており、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会は、そういうことに対する施設の方で経営とか管理・運営ということの手法を大事にしながらというところがあった。二つの団体の良さを生かしながら、時には丁々発止とやりあいながら、時には新しい発想がぶつかったりということもあったと思うが、新しい仕組み作りのためにはむしろそういういろいろなアイデアをどんどん出し合い、それをまとめていくというところがある。つまり関わっている人もさらに学習を続けているということを私なりに垣間見た覚えがある。補足というより個人的な感想がかなり入ってしまったかもしれないが、生まれつつあるということは、今回の委員の方もどんどん意見を出し合って、小田原らしいキャンパスおだわらを作るということで、皆さんぜひ参画をしていただければと思う。

いまの説明について、何かご質問や意見はあるか。

齊藤委員 生涯学習の講座が設立するまでいろいろな業務があると思うが、どこまでが市民が担って、どこまでが行政が担っていくのか、すみわけがあるのか。

事務局 まず委託している部分と実行委員会のところと分けてお話をさせていただく。委託をしている事業については、市が委託料をお支払する形で、さらに執務場所を提供している。けやきの中の事務室の横に執務スペースを設けてそれを提供している。こちらの情報誌の発行などがこれは全部編集から発送の手間にいたるまで、キャンパスおだわら事務局でやっている。

講座の企画については、行政講座と市民企画講座とほかの主催者が実施するような講座とが混在するので、それは講座の企画者がそれぞれ費用を負担して、経費がかかるものについては経費の徴収なども行っている。

実行委員会形式でやっているのが人材バンクであるが、これについてもまず市が執務場所を提供している。それから運営にかかる諸経費であるが、これは受講する方からも必要経費を負担していただいて、できるだけ独立採算でやっていきたいという方向性を持っているけれども、軌道に乗るまでの当座の資金ということもあるので、市の方から事務経費とそれに係る人件費等が負担金として支出されている。実際の登録事務といったものは、実行委員会の中で市民のかたに担っていただいているということで、かなりの部分を市民の方が独立してやっていたり、そういう意見を聞きながらやっていくという形で進めている。

事務局 講座体系というところで、行政講座については、基本的に私ども生涯学習課が企画する講座、それから各所管で企画する講座、イベント等を含め、行政が企画から運営までを担う形になっている。市民講座は、様々な形態があらうかと思う。市内の市民講座すべてを把握できているわけではない。人材バンク実行委員会がキャンパス講師等を活用して企画する講座については、こちらの講座のどこまで役割分担するかというところが生じるが、基本的には企画はNPOやおだわら塾の方にお任せしているという状態である。そういった講座をすべて把握しているのが、今のNPOが担っているキャンパスおだわらの事務局であり、また人材バンクが企画したもの、それから市民が企画したもの、または他の機関から持ち込まれて認定をお願いしているもの、こういったものを統括して運営しているのも、キャンパスおだわら事務局である。

委員長 ほかにはいかがか。

岩屋委員 講座基準に従って認定するとあるが、実際に、本当にこの講座基準に沿っているのかどうかという評価はされているのか。

事務局 実質はその講座をすべて見に行くことはできないので、あくまでもこちらはいただいた情

報という中での判断になってしまう。まさにそのところも私どもの課題を感じているところで、たとえば募集人員が定員30人ということは把握していても、その講座にたとえば10人しか集まらなかったとか、定員を超えるお申し込みがあったのか、すごく評判が良かったのか、というところまでの把握はできていないのが現状である。

委員長 今のご質問は、実際に事業を行うための評価ということか。

岩屋委員 当然その時の提出で認定すると思うが、本当にそのとおりに運営されているのかどうかというのが本来必要になるのではないかと。そうじゃないとどんどん数は増えていくけれども、本当にそのとおりにやられているのかというのを評価しないと、よくないのではないかと気がしたもので、質問させていただいた。

委員長 まだもう少し時間がとれると思うので、いかがか。

有賀委員 確認であるが、以前自分時間手帖の中にあった市民教授が、キャンパス講師という形で組み込まれたというところよろしいか。

事務局 そのとおりである。

委員長 市民教授という名称の方がよかったか。

有賀委員 いいえ。今年からキャンパス講師という名称に変わったということよろしいか。

委員長 そのとおり。

【議題（3）開設講座について】

キャンパスおだわら事務局 前回の運営委員会が2月であったので、3月以降、3、4、5、6、7月分のキャンパスおだわら情報誌をお手元に配布させていただいた。これらがキャンパスおだわら事務局で仮認定をした一般市民を対象にしたキャンパスおだわらの講座である。それから、もう一つ黄色の紙で夏休み子どもおもしろ学校というパンフレットがあるが、これは小学生、幼児を対象とし、夏休みに開催される講座である。以上がすべて事務局で仮認定した講座の資料である。それからの講座については、資料5をご覧ください。これは全部で42件あるが、期日は8月、9月に行われる講座をまとめたものである。

委員長 今の説明について、何か質問などあるか。

委員長 私の理解で、まず前回の運営委員会が2月だったので、それ以降の冊子の7月号までが仮認定の段階という理解で、まずこの冊子の情報の認定というのがあると思うのだが、そこから始めてよろしいか。

石井委員 この冊子というのはページ数は決まっているのか。

キャンパスおだわら事務局 情報誌については、原則、16ページを基本にしている。ただ、講座が月によって非常に変動する。特に7月、8月、9月は多くの講座があるので、そこについては、限定的にページ数を増やしている。今回7月号をご覧くださいと、20ページある。講座の少ない月にはページ数を減らしてという格好であるが、全体としては16ページを基本に発行している。

委員長 もう少しあった方がよいということか。

石井委員 基本16ページだとしても、場合によってはページ数を減らしてもいいのかなど。

委員長 それでは全部見切れていないかもしれないが、基本的には認定をするということで、よろしいか。

(異議なしの声あり)

委員長 次に、黄色の夏休み子どもおもしろ学校について何かご意見はあるか。特になければこちらについても認定審査を終えたということによろしいか。

(異議なしの声あり)

資料5の開講予定講座について何かあるか。特にないようなので、認定ということにしたいがよろしいか。

(異議なしの声あり)

【その他】

事務局 第2回の運営委員会について、8月8日(木)を予定している。

会議終了後にこちらの生涯学習センターけやきを希望者にご案内させていただきたい。ご希望の方は終了後お集まりいただきたい。

委員長 委員の皆さんから何かあるか。せっかくなので、10分くらいでも、意見交換または、先ほどの自己紹介の続きのようなものができればと思うがいかがか。齊藤委員から、一言ずつお願いしたい。

齊藤委員 全部把握し切れていないのが、市民としては一冊見ればどこに行こうかなという、すぐメニューがいっぱいあるというのは、非常にわかりやすい。同時にボランティアとかNPOの専門家としては、市が担ってくれる人材育成も生涯学習の大事な役割になってきているので、その点どういう人材がここで育ってきているのかという検討の筋書きが、今後出てくるのかという点で、私も一緒に見させていただきたいと思っている。

左京委員 事務局の方に質問であるが、8月以降にまた概要をご説明いただけるということであるが、現状の参加者についての情報が知りたい。参加してらっしゃる方の数、属性、年齢、性別その他把握しているカテゴリー、各講座に参加されたときのアンケートをとっているのであれば、そこでの反応など、まずそこを同時に見たい。とにかく今、何をやっているかということはデータとしてあるけれども、結果どうなっているのかというところの情報がほとんど何もないので、そこを合わせて見てみたい。

さらに、理念や目的の大きな部分では共有できているが、その大きな理念・目的と、実際にやっていく中で、その理念や目的というのが実際達成できているのかどうか、あるいはできているとしたら、どこまでができていて、どこができていないのか、そういう評価、現状の歩みがどこまでできているのかというところを見つつ、ひょっとしたらまた理念や目的が大きなところからもう少し小さな目的や理念、あるいは目標等に落ちていくのではないかなという気がする。

今のところでは大きな理念と個別にやっていること、の二点しか見えていないので、これについてどう考えるのかというのはすごく難しい。たとえばこの冊子一つとってもこれでもいいのかどうかというのは、いったいこれは読む対象を誰と想定していて、その人にとってどういう内容を伝えたいのか、によってあるべき姿というのはたぶん変わってくる。ご高齢の方を対象にしているのであれば、フォント数がこれ以上のものにしようとか、そういう配慮がでてくると思うが、基本的に行政の立場としたら、だれもがということを対象にするということは、もちろん賛成なわけだが、中でも特にこの事業はこういった目的でやるので、こういった市民を顧客として想定しているのか、こういうふうにしようなど、個別の政策が必要になってくるのだらうと思う。

有賀委員 初めての集まりでして、まず関係の職員の方がたくさんいらっしゃるのに驚いた。やはり奥が深いとあらためて感じた。この情報誌もかもめ図書館など公共のところ目にするが、実際どの程度皆さんが講座に参加して、どういうふうにならったのかという情報を具体的に知りたいと思う。そういう反省を生かしてまた次の講座を考えていくのかなと。黄色のチラ

シは例えば学校の方に配布するのか、またただ置くだけで目にした子どもたちが参加するのか、そのあたりもどうやって情報を発信しているのかということお聞きしていきたい。

事務局 この件に関しては、学校を通じて、生徒のご家庭に届けている。

岩屋委員 今回、この委員を受けるまでは、なかなかこういう情報に接する機会が少なかった。小田原市全体がキャンパスと考えたとき、私が思ったのは小田原市民みんなが学生ということだ。じゃあ普通学生だったら学生証があるのではないのか、さらにこういう情報が現状冊子であるが、たとえば最近で言えば学生として登録したのだったら、登録した人にはメールで最新の情報が常に流れるようにするというような、小田原市全体をキャンパスと考えていく、学生という形で登録ということを事前にしていくなど、そういうことも考えてみる必要があるのではと、今回感じた。そういうことができるようになれば、どの人がどれだけの講座を受けたのかという情報なども逆に収集しやすくなるなど、そういうことも考えていくのが大事だと思う。

宮地委員 岩屋委員もおっしゃったようにホームページ・メール等、活用しながら、いろいろ収集していくなど、いろいろな可能性がまだまだあると思う。キャンパスおだわら（情報誌）についても、せっかくまちの声という見出しであるので、同じように講座を受けた方の声もあってもいいのかなと感じた。まだまだいろいろ皆さんのお話を聞きながら考えていきたい。

事務局 7月号にも宮地委員の小田原高校定時制の公開講座の特集を組まさせていただいた。定時制の方で市内の専修学校とかそういったところとの提携を結んでいて、生徒のやる気を引き出すためにこういういろんな公開講座を設けたり、学校への理解を深めるために市民の人に学校に目を向けてもらうということで企画されている。補足になるが、日本新薬さんは広報おだわらの7月1日号で特集されており、インターネットの方でも配信しているので、合わせてご覧いただきたい。

永田委員 講座の最少人数というのはあるのか。

事務局 たぶん主催者によって成立する、しないというのがある。

キャンパスおだわら事務局 講座の内容によって、講座企画者と講師の方との話し合いの中で、定員が決まっていく。

永田委員 参加者の数についてはそちらで把握されているのか。

キャンパスおだわら事務局 参加者の数については確認している。また、次回の運営委員会でその辺の情報を提供させていただきたい。

左京委員 ふつうイベントであれば、何人集まったかによって開かれる開かれないが当然ある。情報誌には、定員は載っているけれども、多い場合は抽選することも載っているけれども、何人以下の場合は開催しないということが載っておらず、自分が申し込んだときに何人以上ならちゃんとそれは開かれるのかどうかということがわからない。

永田委員 それもある。人数が少なかった時にも開催されるかどうか。

人材バンク実行委員会 たとえば、夏休み子どもおもしろ学校、これには表紙のところに、申し込み多数の場合は抽選ということと、5名以下の場合は中止になる可能性がある旨書いている。定員人数については表示されている。講座を開催する部屋によって何人以下と決まってくる。講座内容によっては先生の手間や助手がいなくてできないため10人以下にして欲しい等、個々の相談のあとで決めている。

石井委員 今回初めてこういう冊子をしっかり読んだ。きっとこういう市民はたくさんいると思う。せっかくこのいい情報誌があるので、興味のない人でもこの冊子を手にとろうかという気になるような状況を作ると、もっといろんな人が生涯学習に参加できるのではないかな。

キャンパスおだわら事務局 情報誌については、講座だけの情報ではなく、特集記事やまちの声、受

講者のご意見など時々掲載させていただいて、そういう関心をもっていただけるようにという努力はしているつもりである。

与那嶺委員 生涯学習といった場合には、自己選択の自己決定ということが原則であると思っている。そういう意味からこの情報誌はちょうどいいと思うけれども、市民のニーズの把握がこれからの課題である。もう一つは、だれでもどこでもというのがあがるが、私どもの小田原寺子屋スクールとか、そういった団体がどう関わっていくか考えることとで初めて、どこでも学べるキャンパスおだわらになるのではないかと考えている。

瀬戸委員 市民の方はいろいろな講座があるということを知らない。自治会回覧で回す場合にはいかに全部のページを見てもらうかということが課題になっている。ぜひ何かの機会にキャンパスおだわら情報誌を見てもらうよう勧めていきたいと思う。

委員長 以上で、本日の予定を全て終了する。次回は8月8日ということで、よろしく願いしたい。

以上